

台湾研修

今年度も平成28年3月17日(木)から22日(火)に台湾研修が実施されました。充実した事前研修, 研究を経ての海外での発表は非常に意義のあるものとなっています。生徒たちの感想をご覧いただきたいと思います。また, 1, 2年生は3年生の経験を参考にして積極的に参加して欲しいと思います。

参加生徒 2年次普通科女子 4名
2年次理科男子 21名 女子 2名

研修内容

- 3/17(木)孔子廟・保安宮見学 ポスター発表
- 3/18(金)国立科学工業園区実験高級中学
授業参加・課題研究発表
- 3/19(土)国立台湾科技大学
工学に関する講義, ポスター発表指導
機械実験室見学
- 3/20(日)国立故宮博物館・台北市立動物園見学
- 3/21(月)国立蘭陽女子高級中学
課題研究発表・実験参加(DNA抽出)

「国際化が進む現代社会の中で」

台湾研修を通じて, 一番印象に残ったことは英語へのとらえ方が変わったことだと思う。今まで, 英語は共通言語でありグローバル化が進む現代社会では必要不可欠なものだと思い, 習得し



3年I組 早田 尊君

なければならないものとして勉強してきた。それが今では英語をコミュニケーションツールとして肯定的にとらえるようになった。これは, 外国人と英語で話すことからでしか得られない貴重な経験だと思う。皆さんも機会があればぜひ外国人との英会話をする機会を持ってみてはどうだろうか。そうすれば, 英語の勉強に対する気持ちが楽になるはずだ。

台湾の学生は英語での会話力が高い。例えば, 彼らは自分たちによく話しかけてきた。その上, 彼ら同志の会話を英語ですることすらあった。その主な要因は英語教育であると思う。台湾では授業数が多いうえに

テストをよく行くと聞いた。また, それが今の産業の発展に結びついていっていると思った。日本では授業以外で英語を使うことはほとんどない。台湾では国際的な人材の育成が当たり前になっていることに驚いた。また, 観光として台湾を振り返る。まずこれは前から知っていたが, 車が右側通行でバイクが多い。ホテルのあった台北の道路は片側三車線とかなり広く, 違いを実感した。また, 台湾の料理はおいしいが量が多い。夕食はボリューム満点で食べきれないときもあった。それに加え, 台湾人は水分摂取量がとても多い。日本でいうトールサイズのタピオカジュースは個人的には飲みきれない量であった。コンビニに行っても日本より一回り大きいサイズのペットボトルしかなかった。



今回私たちは国立科学工業園区実験高級中学, 国立台湾科技大学, 国立蘭陽女子高級中学に訪問したが, 3つの学校は船高と比べて広く, きれいだった。日本とは学習環境にける規模が違うと実感した。また, 国立故宮博物院, 台北市立動物園, 中正紀念堂, 龍山寺, 台北駅周辺と, 有名な観光名所を回ることができたが, 台北 101 の最上階にも超高速エレベーターで昇ってみたかった。

最後に, 今回の研修ではいろいろな交流や体験を通じて日本と台湾の文化の違いや歴史的なつながりを学んだ。さらに, 外国で見たからこそ日本の良さや足りない部分に気づいたことも多く, 行くまでは考えもしなかった新しい視点を持つことができたと思う。

「台湾を身近に感じた台湾研修」

私は英語でのポスター発表をする能力と英語でのコミュニケーション能力を向上させることを主な目的として今回の台湾研修に参加しました。まず, 事前研修はとても効果的でした。学校でのポス



3年I組 岩井一輝君

ター発表の練習では英語で発表することや英語での質疑応答に慣れることができました。柏での事前合宿ではネイティブの講師を相手に発表の練習をしたり、ポスターの手直しをしてもらったりしました。英会話の授業があったり、食事のときに講師の方々と会話をするために英語を使用したりしたことで、英会話に慣れ、英語に対する不安が薄れました。



事前英語合宿の様子

私の研究は実験と解析だけで1カ月程度掛かってしまうということ、入試の影響であまり学校に入ることができなかったこともあり、台湾に行く直前までポスター作成に時間が掛かってしまいました。とても大変だったので、もっと早めに進めておけばよかったと少し後悔しています。



今回の研修では高校2校と大学1校の計3校と交流をしました。どの学校の生徒も英語が上手で、自分の英語力の低さを痛感させられました。各校でポスター発表をしましたが、事前研修やホテルでの夜間研修のおかげで予想していたよりもスムーズに行うことができました。私は発表するときにタブレット端末を利用しているのですが、発表するときに研究に使用した道具やタブレット端末で画像や動画を見せた方が相手

に伝わりやすかったので、国内外に関わらずポスター発表するときにはそういう類の物を準備することをお勧めします。そして今回の研修で最も驚いたのは蘭陽の研究に以前私が行っていた研究ととてもよく似た研究があったことです。

今回の研修は英語で発表したり、コミュニケーションを取ったり、台湾の生活を身近に感じることができたりして、とても良い経験になりました。この経験を活かしてこれからも頑張っていきたいです。

「伝えようとする気持ち」

今回の台湾研修は普通科から

4人参加しました。普通科は理数科と違い1年生の時は「社会と情報」という授業の中で課題研究を行います、2年生になると授業がなくなって



しまいます。そのため放課後3年H組並木千夏さんど時間を見つけて自分たちでやらなければなりません。4人それぞれ部活に入っていて忙しく、なかなか集まることができなくなってしまいましたが、私たちが研究を続けた理由の1つに台湾研修があったので、なんとか時間を取って研究を続けてきました。10月くらいに台湾に行けることが決まっからは、英語での発表の準備を開始しました。はじめは発表の基本から勉強し、柏の葉での2泊3日の合宿では外国人の先生によるポスターや発表の指導はもちろん、先生方との会話を通じて英語での会話の練習をするなど英語漬けの3日間になりました。その後も何回か集まりポスター発表の練習をしたので、お互いの研究を英語で理解できるまでに成長できました。しかしいざ台湾へ行くと英語での会話の難しさを実感しました。研究発表は練習をしたので出来るのですが、質問が聞き取れないために答えられないこともありました。交流の時間に台湾の学生が皆流暢な英語を話す一方、私は伝えたいことをうまく英語にできず英語力が足りないことを実感しました。でも拙い英語でも相手は理解しようとしてくれるので、文法などの間違いを恐れずに話すことができるようになりました。伝えようとする気持ちが大切だということ学びました。

台湾研修は何度も事前研修がありテストや部活の中での準備は大変でしたが、しっかり準備したおかげでとても有意義な6日間になりました。日本で生活しているだけだと英語を使う機会はあまりなかったので、台湾研修に参加することで英語をたくさん使うことができよかったです。自分の英語力の不足を感じたので、実践的な英語の勉強をして今回より英語での会話ができるようになりたいと思いました。研修の内容はとて

も充実していて、このプログラムのおかげでプレゼン力や英語力も向上し、勉強していく意味づけも自分の中で明確になり、成長できたと思えるので参加してよかったと思います。

SS 課題発表会開催

平成28年2月6日本校で SS 課題発表会が開かれました。理数科の研究成果を口頭発表とポスター発表で披露しました。指導助言の先生方をお招きしご指導を賜り、本校生徒や来校した中学生に対してポスター発表を行いました。



口頭発表の様子



ポスター発表の様子

平成27年度実施のSS講座と参加状況

千葉工大 fuRo 見学 (21名) 5/10 (金)
 モデルロケット (22名) 5/10 (金)
 色が変わる物質 (32名) 5/13 (水)
 KEK 霧箱製作実験 (23名) 6/12 (金)
 三井製糖見学 (21名) 6/23 (火)
 植物工場 (東大柏C 12名) 6/23 (火)

動物行動学 (県中央博 11名) 7/10 (金)
 SS自然教室 (乗鞍高原 26名) 8/2 (日) ~ 3 (月)
 マセマティカ講習会 (千葉大 8名) 8/24 (月)
 つくば校外研修 (JAXA 他 45名) 8/25 (火)
 蜃気楼実験 (10名) 10/28 (水)
 数学 (18名) 10/30 (金) 28 (金)
 遺伝子組換え (34名) 11/26 (木) 27 (金)
 ラット解剖 (47名) 1/30 (土)

つくばScience Edge 2016 英語ポスターセッション部門 第2位受賞

テーマ

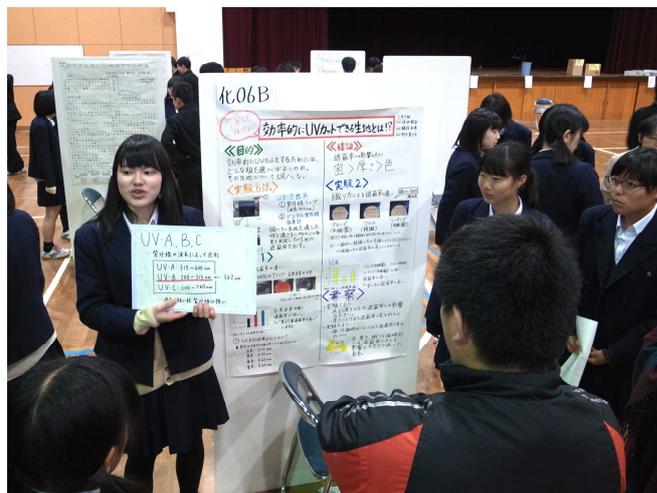
「The Creation of a New Cubic Puzzle and its Mathematical Properties」

3年 松岡理衣さん、小坂友紀さん、
名兒耶美緒さん、並木千夏さん

3/25 (金) 26 (土)につくば国際会議場に於いて「つくばScience Edge 2016」が開催されました。国内・海外から60校(全195チーム)が参加し、オーラルプレゼンテーション、日本語ポスターセッション、英語ポスターセッションの部門に分かれ、科学に関するアイデアを発表しました。本校では、上記のとおり3年生の4名が受賞しました。

「社会と情報」ポスター発表

普通科「社会と情報」の授業においても探究活動を深めています。今年度も普通科1年生全員のポスター発表会を3/16(水)に実施しました。「社会と情報」では、人文科学系の研究も実施可能としているので、より幅広い分野の発表が見られました。



ポスター発表の様子(本校体育館)

**平成27年度 第7回
千葉県高等学校課題研究発表会
平成28年3月19日千葉県立船橋高等学校**

今年度は本校を会場に開催されました。県内の課題研究に取り組んでいる学校の代表者による口頭発表9件及び216件・653名の生徒がポスター発表を行い、日頃の研究成果を披露しました。

<p>学校代表口頭発表の部 優秀賞受賞 「ゼラチンをエタノールに浸けたときの 直径、硬さ、質量の変化」 3年I組佐藤あみ・中野遥</p>

【ポスター発表参加一覧】

物理分野
理数科2年
反射後の運動する球の軌道の性質 石倉光太郎・守友功成
凹凸による台車の止まりやすさの変化 神林陽良
おこし回転の走り幅跳びへの応用 赤司健楨
理数科1年
紙飛行機の翼面積と発射角を変えたときの飛距離の変化 田中瑞希・谷口僚麻・堂脇大志

化学分野
理数科2年
シュウ酸ビスを用いた化学発光における添加物の影響 大塚竜征
ゼラチンをエタノールに浸けたときの直径、硬さ、質量の変化 佐藤あみ・中野遥
酸化チタンの光触媒反応の可視光応答～金属ドーピングを利用して～ 西澤輝
理数科1年

木炭の生成時における加熱温度と電気抵抗値の 相関 柿澤昂志
酸化チタン光触媒による物質の酸化とその利用 岸田実優・吉田拓暉
カルボン酸を用いて放射性物質を除去する方法 渡邊有希人

生物分野
理数科2年
納豆菌を用いた水質の浄化 今村歩夢
大豆以外の豆で納豆が作れるか「納豆状態」を 数値で表現する 黒須慎一郎・金子明里咲
ボルボックスが温度に対して示す走性 西沢奏
フタホシコオロギの歩行速度と関節角度 羽鳥友基 富永成海
チャコウラナメクジにストレスを与え続けた場 合の学習能力 古川未晴
理数科1年
二酸化炭素が光合成速度に与える影響 小林明日香
ミズキンバイの繁殖戦略 小原瑞稀・松原瑞貴

地学分野
理数科2年
エアロゾルと宇宙塵の観察 橋本玲央名
粒子・水混合体の音速測定 北原 暖
理数科1年
模擬火成岩の作成実験における冷却時間と結晶 の状態の関係 井上 大裕 大久保 敦也

編集後記

嵐にも負けず桜は花卉を残しています。毎年同じ桜を見て編集をしていますが、去って行く生徒に変わってまた次の代の生徒たちが紙面を賑わっています。時は流れます。(M・T)